

				至自		至自		至自		至自		昭		年 月 日	略 歴	第一五航空通信連隊 (第九八七六部隊) 略歴
				15		14		14		14		13				
1	1	1	12	7	2	3	1	12	10	9	10	5	5			
17	17	14	22	20		28	1	31	1	31	1	31	11	4		
<p>北支北京、航空兵团(徳川部隊)内において第一五航空通信隊編成完結</p> <p>北支に在りて第一期肅正作戦田号作戦準備、航空撃滅戦並びに要地攻撃に参加</p> <p>掃蕩戦第二期肅正作戦田号作戦準備、航空撃滅戦並びに要地攻撃に参加</p> <p>北支に在りて肅正作戦並びに要地攻撃に参加</p> <p>地上直接協力作戦、航空撃滅戦並びに要地攻撃に参加</p> <p>南京移駐</p> <p>昭和一六年軍令陸甲第二〇号により南京において編成改正第三中隊編成</p> <p>南方転進のため南京出発</p> <p>泰国「シンゴラ」上陸</p> <p>泰、馬來国境通過、同日より馬來方面航空諸部隊に協力</p> <p>「スングイバタニ」着</p>																
															摘要	

0590

											昭		
											17		
18	11	11	10	10	10	10	10	10	9	7	7	3	3
	30	1	19	17	14	12	4	1	28	15	4	13	8
<p>「スングイパタニ」出発</p> <p>「スマトラ」島「メダン」上陸</p> <p>「メダン」出発</p> <p>昭南島上陸</p> <p>転進のため昭南港出発</p> <p>西貢寄港</p> <p>西貢出発</p> <p>高雄寄港</p> <p>高雄出発</p> <p>上海通過</p> <p>南京着</p> <p>漢口に転進、同地に在りて航空諸部隊に協力</p> <p>昭和一八、一一、五軍令陸甲第九九号により編制改正、第一五航空通信隊を第一五航空通信連隊と改称</p>													

二十五の四 編

0591

							昭
							20
							21
							8
							15
漢口残留の第三中隊は同地附近にありて航空諸部隊に協力中停戦となり左記の							
如く帰還せり							
漢口出発							
鄂城に集結							
鄂城出発							
上海に集結す							
帰還のため上海出発							
博多上陸 復員							
部隊長							
初代 大佐 佐々木 省三							
二代 少佐 小笠原 尙三							
三代 中佐 家 村 慎三							
四代 大佐 宮 村 信幸							

0594

至自	至自								昭	年 月 日	第一六航空通信連隊 (誠才一八四九九部隊)	略 略 歴							
2020	2020	20							19										
8 6	6 3	2	10	8	8	8	8	7											
1421	2026	28	17 10	25	24	15	10	31		略	歴								
台湾における防衛勤務に参加		台湾並びに南西諸島における天号航空作戦に参加		昭和二〇、二、八、軍令陸甲第二四号により編成改正、第一六航空通信隊を第一六航空通信連隊と改称		台湾並びに南西諸島における防衛戦に参加		台北着		台湾基隆上陸		門司出發		移駐のため斉宮出發		隊臨時編成完結		昭和一九、六、八、軍令陸甲第六一号により斉宮において第一六航空通信	
										摘									
										要									

0595

					21				20				
	3	3	2	2	2	1		12	8				
	16	11	27	20	16	1		20	15				
	大竹港上陸、復員	高雄港出発	一部内地帰還のため屏東出発	鹿児島上陸 復員	部隊主力内地帰還のため基隆港出発	復員下令	一、第五野戦航空補給廠	一、第六四飛行場中隊	一、第六二飛行場中隊	一、第三飛行場中隊	一、第三九航空地区司令部	第八飛行師団司令部作命により左記の部隊に一部転属す	停戦

0596

				21						20
	6	6	5	4	12	11	9	8	7	6
	11	2	3	26	1	28	19	25	29	27
部隊長 中佐 須藤三作	佐世保港上陸復員	上海港 _v 出発	上海到着	鄂城 _v 出発	鄂城 _v 鄂城到着	移動のため漢国出発	漢国到着	衡陽出発	衡陽到着	広東出発

0597

昭					年 月 日	略 歴	才 二 三 航 空 通 信 連 隊 (隼 才 一 七 三 三 二 部 隊)
20							
2							
	20			20		略	歴
	3	3		2			
	18	15	10	28		略	歴
<p>昭二〇年軍令陸甲第二四号に依り臨時編成下令</p> <p>第一五航空通信連隊長編成担任官となり、広東に於て編成着手</p> <p>第七航空通信連隊より有無線中隊各一</p> <p>第一〇航空通信連隊より無線中隊一</p> <p>第一五航空通信連隊より無線中隊一</p> <p>無線分隊一、有線小隊一を転入し編成す。</p> <p>第二三航空通信連隊長編成担任官となり編成改正着手</p> <p>第二航空軍より乙無線中隊一、材料敵一、閩東軍より九六名を転入し、編成を完結す</p> <p>主力広東に。一部は南雄、厦門、汕頭、安、啓徳、海口、三興、黄流、西營、梧州、丹竹、湘潭に展開す。</p>							
						摘 要	

0598

昭										年 月 日	カ 一 七 航 空 通 信 隊 (威カ一八九一五部隊) 略 歴
20	20	19	19	19	19	19	19	19	19		
4	1	12	11	10	10	10	9	8	8		
25	10	20	2	26	5	4	20	15		日	
<p>三重県育宮中部二〇部隊に於て編成完結</p> <p>部隊本部の一部、無線中隊の主力新田原飛行場出発</p> <p>部隊本部有線中隊、材料廠、無線中隊の残余大祥丸、泰洋丸に乗車門司港出発</p> <p>先発隊「クラーク」着「マニラ」「マビニー」小学校に集結</p> <p>敵潜水艦の雷撃を受け両船共沈没</p> <p>主力北「サシフェルナンド」上陸</p> <p>「クラーク」「バンバン」に展開、一部「バギオ」に派遣</p> <p>「バンバン」地区通信隊となる、村上中尉以下一〇〇名補充</p> <p>「エチャゲ」附近に展開、一部を「ツゲガラオ」に派遣</p> <p>臨時集成通信隊編成、集成飛行隊長の指揮下に入る（成瀬大尉以下一四〇名）</p>										略	歴
										摘 要	

20	20	20	20	20	20
9	8	6	6	6	4
2	10	25	13	4	28
<p>隊長森少佐以下主力は歩兵才一九大隊を編成 撃兵団長の指揮下に入り戦車才一〇聯隊（原田中佐）に配属「サラクサ」の 陣地附近の戦斗加入 「サラクサ」陣地附近より転進せるも部隊四散し始んど全滅 「エチャゲ」に在りし集成通信隊は米軍進攻に伴い「ミヌリ」附近に向け転進 「ミヌリ」附近に於て自活態勢に入る 「ミヌリ」附近の敵と交戦、後、東海岸 「カシグラン」に向け転進 終戦に伴い、戦闘行動停止、爾後生存者（部隊）は所在の地点で武装解除され た後米軍収容所に入る。</p>					

0601

昭											年 月 日	才二一航空通信隊 (誠才一九一五九部隊) 略 歴	
20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20			略
9	6	6	5	5	5	4	4	3	2	2			
2	23	22	28	29	22	2	1	24	26		歴	摘要	
<p>終戦に伴い戦闘行動停止、爾後生存者は所在の地点で武装解除された後、^{米軍}米軍収容所</p> <p>軍司令部最後の報に接し中隊解散各人斬込を敢行す。</p> <p>全無線機破壊</p> <p>文仁到着一部才二中隊協力</p> <p>文仁前進下命と共に真栄平到着</p> <p>軍司令部文仁転進と共に麻文仁通信所開設連絡</p> <p>球部隊へ永見習士官以下四〇名配属</p> <p>才一中隊首里転進完了山部隊に小泉軍曹以下八〇名配属</p> <p>天一号作戦下令と同時に首里転進才一無線、中隊と交信</p> <p>那覇港上陸 安里村宿営</p> <p>群山才三一航空通信連隊に於て編成</p>											略	摘要	

							昭 18	年
							19	月
							11	日
		20						
9	8	1		5	5	4	1	11
2	15	20		5	2	17	10	10
<p>第二二航空通信隊 (威第一五三三七部隊)</p> <p>略歴</p> <p>宇治山田第七航空通信連隊に於て勅員下令 宇治山田に於て編成完結 門司港出發 「マニラ」上陸 「ルソン」島「クラークフィールド」に転進 爾後第二航空通信団隷下に在りて比島作戦に参加 一部「ツゲガラオ」「ラオアグ」「バスコ」「サンマリセリナ」に展開 「クラーク」西方山岳地帯に転進、同地警備 「クラーク」西方山中に於て停戦 終戦に伴い戦行動停止爾後生存者(部隊)は所在の地点で武装解除されたの</p>								
							略	歴
							略	歴
							摘	要

0604

							昭 18	年 月 日	才一航空固定通信隊 (編才一九二五三部隊) 略 略 歴
							8		
8	8	6	10	8	8	8			
20	15		11	20	15	1		略	
<p>第一固定無線隊樺太大谷に展開す 第二固定無線隊北千島幌筵島北ノ台に展開 第一固定無線隊の主力札幌に引揚げ本部と合流。一部残留す 部隊は各展開地と通信網を形成、爾後内地との通信連絡に従事す 札幌、千島、樺太において停戦 第一固定無線隊残留者大谷において武装解除を受く</p>							第一航空固定通信隊編成下令 札幌において編成完結 本部及び第一第二第三固定無線隊に編成区分す 本部及び第三固定無線隊の主力は札幌、第三固定無線隊の一部は帯広に派 遣せられ通信業務に従事す	歴	
								摘要	

0606

		20
		9 8
		15 24
内地駐留部隊復員	第二固定無線隊 幌筵島磐城において武装解除を受く	
部隊長		
少佐	江口宗三	
第一固定無線隊長		
少尉	木村光義	
第二固定無線隊長		
中尉	進藤武雄	
第三固定無線隊長		
少尉	佐藤	

0607

		昭 18	年	第三航空固定通信隊 (司第一一〇六一部隊) 略 歴
同	19	8	月	
	8	25	日	
日	20		略	略 歴
			歴	
			摘要	

「ジャワ」「バンドン」において編成改正
爾後同地およびその周辺に展開し作戦に参加す
「ジャワ」において部隊復帰
固定通信隊玉田隊(南方軍)に転属

0608

昭 18										年 月 日	略 歴	
19												
8	8	7	7	5	4	4	3	12	11			
14	10	21	12	12	6	3	28	25	5			
<p>軍令陸甲第九九号により臨時編成下令</p> <p>「ジャワ」島「マラン」市第九航空通信連隊において編成完結</p> <p>比島転進のため部隊主力「マラン」出発、(八名物資入手輸送のため残留)</p> <p>「スラバヤ」出発</p> <p>「マラン」残留者八名「スラバヤ」に転進</p> <p>部隊主力比島「マニラ」上陸</p> <p>残留者八名「スラバヤ」出発「ジャカルタ」に向う</p> <p>昭南着</p> <p>残留者昭南出発「マニラ」に向う</p> <p>瑞洋丸東経一一一度北緯三度五〇分の地点にて魚雷により沈没、残留者八名中七名消息不明</p>												
											摘 要	

才四航空固定通信隊 略歴

(司才一一八〇一部隊)

										19	18		
8	8	3	3	2	2	2	2	2	1	1	12		
20	15	29	10	16	14	9	6	5	29	11	25		
部隊長 少佐 永松 栄	第四航空固定通信隊、人員は南方軍第一、第四通信隊に編入せしめらる より復帰	軍令陸甲第八八号、陸垂密第四〇一号により南方軍通信隊臨時編成下令に	比島「マニラ」着	昭南出発	昭南着	泰、馬來国境通過	「ブノンベン」出発	「ブノンベン」上陸	西貢出発	仏印西貢上陸	門司出発	第四航空固定通信隊要員集結	内地よりの部隊補充人員の行動

0610

						昭		年 月 日	略 歴
						18			
11	10	9	8	5	11	11			
10	8	1	15	30	30	5	略	才五航空固定通信隊 (隼才九八九六部隊)	
<p> 軍令陸甲第九九号により臨時編成下令 南京において編成完結 部隊は支那各地に展開、第五航空軍司令部の指揮下において遠隔地間の 通信業務に従事す 第五航空軍司令部朝鮮移駐に伴い本部及び第一固定無線隊朝鮮に転進爾 後京城にありて作戦に従事す 在支部隊は、南京、北京、天津、濟南、広東及び在鮮部隊は京城におい て停戦 在支部隊の一部第一四航空通信連隊に転属 在鮮部隊第一次復員 在鮮部隊第二次復員 </p>									略
								摘 要	

	部隊長 少佐 鷹羽泰治郎

0612

昭											年 月 日	才三航空特種通信隊 (司才一二九〇三部隊) 略歴	
19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19			
11	8	7	7	6	6	6	6	6	6	5			
		20	21	17	28	21	19	18	16	14	30	略	函
「パレンバン」着		昭南上陸	「マニラ」港出發	「マニラ」港上陸	門司港出發	門司港上陸	釜山港出發	釜山着	鮮満国境通過	新京出發	新京関東軍固定通信隊に於て第三航空特殊通信隊を編成		
												摘要	

0613

					昭	
					年	月
					日	日
20	20	19	19	19	19	19
3	2	9	8	7	5	
13			1	30	30	
<p>新京陽東軍固定通信隊に於て編成完結</p> <p>第四航空軍の隷下に入る。(釜山出帆) 第二航空通信団長の指揮下に入り通信</p> <p>団特種通信隊を編成す。「マニラ」上陸。標定各一小隊を「サンボアング」</p> <p>「マニラ」、屏東、那霸に展開し本部機関を「マニラ」に置く</p> <p>無線諜報を開始す</p> <p>第五航空特種通信隊の「マニラ」上陸と共に「エチャゲ」に転進し勤務を続行</p> <p>す。有力なる一部は隊長臼石小佐指揮し「マニラ」東方に於て振武集団長の指</p> <p>揮下に入りて同地附近の戦斗に参加</p> <p>台湾沖繩に展開せし標定小隊は現地に於て第八航空特種通信隊長の指揮を受け</p> <p>しむ</p> <p>北部「ルソン」に転進せし主力は隘五梅に編入され、主力は歩兵第十連隊に配</p>					略	
					略	
					歴	
					略	
					歴	
					摘要	

0615

	20	20
	9	6
	2	20
<p>「パレデ」附近の戦斗に参加其後「カガヤン」河谷に転進す 戦況不利となり北部「ルソン」に転進し王刀に首せんと企図せしが途中米比軍の妨 害を受け目的を達せず殆んど全滅に陥れり 終戦に伴い戦斗行動停止、爾後生存者（部隊）は所在の地点で武装解除された 後米軍収容所に入る 部隊長代理 大尉 島田三郎</p>		

0616

								年		第五航空特種通信隊 略 歴
								月	日	
20	19	3	6	7	7	9	10	9	23	
<p>軍令陸甲第三四号に依り臨時編成 関東軍固定通信隊に於て編成完結 南方派遣のため鮮満国境通過 釜山港出發、爾後第四航軍の隷下に入る 「マニラ」に上陸、爾後比島全島第三肅正討伐参加 「マニラ」「バコロド」及屏東に展開無線謀報開始、第二通信団の指揮下に入る。 第四航空通信隊を併せ通信団特種通信隊を編成する。 第一次捷号作戦参加 第二次捷号作戦参加 通信団特種通信隊本部の主力「エチアゲ」に転進、一部は振武集団の指揮下に入る</p>										
										摘要

0617

	昭 20
	9 3
	2 13
<p>通信団特種通信隊「エチヌゲ」転進、部隊は臨時第五野戦補充隊に編合該兵団 歩兵第一〇連隊の指揮下に入り「バレット」附近の戦斗参加 終戦に伴ひ戦斗行動停止爾後生存者（部隊）は所在の地点で武装解除されたの ち米軍収容所に入る</p>	

0618

610

至自	至自	昭	年 月 日	才六航空特種通信隊 (鎬才一九二七三部隊) 略 歴							
20 19		19									
8 9 9 9 9 7 9 7 7 6 6 6 5		5									
14 10 13 10 9 7 4 7 3 29 28 15 23		23	日	略 歴							
得撫島にありて警備に従事	得撫島岩見港上陸	鋼走出発	直接警備勤務に従事		千島得撫島に展開のため帯広出発	帯広着	釜山港出発、同日博多上陸	鮮満国境通過	移駐のため新京出発	編成完結(新京)	軍令陸中才三四号により才六航空特種通信隊編成下令
											摘要

0619

				昭
				20
	9	9	8	8
	30	16	27	15
	大泊 出発、 入ソ	武装 解除	オハ ○飛 行場 大隊 長の 指揮 下に入	停 戦

0620

第八航空特種通信隊 (誠第一九一五七部隊)													
略 歴													
年	月	日	略										
昭	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20			
	6	6	3	3	3	2	2	2	2	2			
	21	1	12	10	1	28	25	8					
			那覇派遣隊山見習士官以下一〇名戦死。	新店に転進。	一部沖縄那覇に派遣。	に従事。	爾後沖縄航空作戦に参加、電波による艦船並びに航空機の捕捉及び情報の収集	台北着	基隆着。	台湾移駐のため門司出発。	磐田出発門司移駐。	静岡県磐田において編成完結。	軍令陸甲第二四号により臨時編成。
													摘要

0622

至自						昭	年 月 日	第五航空軍空地連絡中隊 略歴 (隼第三一九三部隊)
2019	19					18		
5 4	2	1	1	1	12	12		
3 10	18	10	6	3	25	15	略 歴	
<p>湖南作戦参加のため漢口方面に転進</p> <p>河南作戦参加のため新郷方面に転進</p> <p>中、南支方面の作戦に参加す(一部を大場鎮に残置す)</p> <p>爾後中、南、北支の地上作戦に協力する飛行第四四戦隊の指揮下にあつて北、</p> <p>中隊と称号変更</p> <p>軍令陸甲第八号により第三飛行師団司令部空地連絡中隊を第五航空軍空地連絡</p> <p>江蘇省大場鎮着。飛行第四四戦隊長の指揮下に入る</p> <p>満支国境山海関通過</p> <p>支那派遣のため牡丹江出發</p> <p>満州牡丹江において編成完結</p> <p>軍令陸甲第九九号により第三飛行師団司令部空地連絡中隊編成着手</p>								
								摘 要

0624

			5	
			3	
	7	6	6	
	10			
<p>部隊長 初代 大尉 千田平衛 二代 中尉 小野寺</p>	<p>軍令陸甲第一〇三号により復帰</p>	<p>主力、朝鮮普州地区に展開</p>	<p>加藤少尉以下七名衡陽に残置、一部漢口に残留</p>	<p>過</p> <p>朝鮮移駐のため主力伊藤少尉以下約一〇〇名南京出發。同日滿支、鮮滿国境通過</p> <p>団長の指揮下に入らしめらる</p> <p>中支衡陽付近において作戦中のところ兵力を集結し南京に転進、第五航空通信</p> <p>大場鎮出發以来部隊は数隊に分れ行動し、衡陽において合流す</p>

0625

											昭
											年
											月
											日
19	19	19	19	19	19	19	19	19	18	18	
1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	11	
29	20	19	19	16	16	14	11	10	25	5	
昭南港出発	門司港出発	門司着	下関発	下関着	釜山港出発	釜山着	鮮満国境圖們通過	佳木斯出発	編成完結	佳木斯において編成下令	略
											略
											歴
											略
											歴
											摘要

才五飛行師団司令部空地連絡中隊
 (高才三一九五部隊)
 略 歴

0626

20	20	20	20	20	20	20	19	19	19	19	19	19	
7	6	6	5	4	3	3	3	3	2	2	2	2	
10	12	11	17	24	21	7	23	18	27	19	14	8	
軍令陸甲第一〇三号により復帰下令	「ブノベン」着	泰印度支那「スバイダケオ」通過	泰緬国境「ミヤハワデー」通過	蘭貢出発	蘭貢着	加郎出発	加郎着	蘭貢出発	反攻 撃々碎作戦参加	蘭貢着、同地附近の警備	泰緬国境「ナヤンガラマ」通過	馬來国境「バタアンベツサー」通過	昭南出発

0627

昭	19	19	19	19	19	19	昭	年 月 日	才 一 通 信 隊 本 部 (尙武才二一七一部隊) 略 歴
19	6	6	6	7	7	7	19		
3	11	25	3	8	2	2	19		
<p>東部第八八部隊に於て編成完結 門司港出発(加古丸丸)</p> <p>「マニラ」港上陸</p> <p>「マニラ」港出発</p> <p>「ミンダナオ」島「カガヤン」上陸</p> <p>爾後「ミンダナオ」島航空基地通信網の構成並に通信担任</p> <p>米軍「ミンダナオ」島上陸と共に中部「ミンダナオ」島パレンシヤ地区東方山地に転進す</p> <p>終戦に伴い戦行動停止、爾後生存者(部隊)は所在の地点で武装解除された 後米軍収容所に入る。</p>								略	
								摘要	

0629

							昭
							年
							月
							日
"	20	"	19	"	"	"	18
4	3	"	4	11	11	"	7
10		30	25	30	25	31	21
<p>軍令陸甲才七一号に依り、才二航空情報連隊臨時編成下令（本部情報中隊、竝に材料廠）</p> <p>静岡梶田町に於て才一航空情報連隊及び才一六航空情報隊人員を基幹として編成完結</p> <p>緬甸「ミンガラドン」に於て才二次編成改正下令（情報中隊二）</p> <p>才二次編成完結</p> <p>緬甸「ミンガラドン」に於て才三次編成改正下令（警戒中隊二）</p> <p>才三次編成完結</p> <p>連隊は才五飛行師団長の企図に基き緬甸より秦仏印に転進開始、五月中旬転進完了せり</p> <p>仏印に於て才四次編成改正下令（警戒中隊一）</p>							略
							歴
							摘要

才二航空情報連隊
（高才九六一七部隊）
略歴

0630

						21			20	20		
						4		11	11	4		
		27	4	9	8	28		20	14	15		
部隊長 初代 中佐 須藤三作 二代 中佐 来海民夫	復員完結	鹿兒島港上陸	一部内地帰還のため盤谷港出発	復員完結	大竹港上陸	主力「サンジャク」港出発	は才五九航空地区司令部に転属（終戦虎理上）	北部仏印「ハノイ」に派遣中の才二中隊長松原大尉以下一八八名（中隊主力）	泰国派遣の一部（才三、四、六中隊）「ナコンナヨーク」集結	従事	終戦主力は依然 才五飛行師団長の隷下に在りて南部仏印に於ける終戦業務に	才四次編成完結

0631

昭										年	月	日	第三航空情報連隊 (羽第八三六五部隊)	略	歴									
18		17			16			15																
11	11	9	9	5	9	7	7	9	3															
30	5	30	26	11	27	28	15		10															
<p>第三航空情報隊の称号を変更第三航空情報連隊と改称その人員、資材を基幹と</p> <p>軍令陸甲第九九号陸重機密第四三二号により編成改正下令</p> <p>編成改正完結</p> <p>軍令陸甲第七五号陸重機密第一六七号により編成改正下令</p> <p>航測中隊本部に復帰す</p> <p>特殊航測訓練に参加せしむるため航測中隊を南方に派遣す(行動後記)</p> <p>編成完結</p> <p>臨時編成下令</p> <p>航測一中隊を編成す</p> <p>本部は龍鎮に位置し満州各地に航空情報網を展開航空警戒に任ず(情報二中隊)</p> <p>満州国北安省龍鎮において第三航空情報隊編成完結</p>																								
										摘														
										要														

0632

	20	19	18
	2	8	12
8	8	16	30
<p>して本部、三情報中隊、材料廠を編成し第一次編成完結</p> <p>第二次編成着手</p> <p>一情報中隊及び一警戒中隊を編成し編成改正完結</p> <p>本部は鞍山に移駐す</p> <p>軍令陸甲第二四号により二情報中隊を第一七航空情報隊に編入せしめ、一情報中隊、二警戒中隊及び一放送中隊を編成し編成改正完結</p> <p>連隊の開戦時に於ける配置状況次の如し、</p> <p>本部及び材料廠 鞍山</p> <p>第一中隊 旅順、龍鎮、錦縣、落南、黒山、湯崗子、遼源、綏中、鞍山、四平、</p> <p>赤嶺、 廟、</p> <p>第二中隊 湯崗子、旅順、 頭山、奉天、石頭城、安東、金州、</p> <p>第三中隊 湯崗子、山海関、老虎山、旅順、安東、鎮南浦</p> <p>第四中隊 湯崗子、古治、奉天、錦縣、鳳凰城、阜新、綏中、遼源、旅順、長城、安東、</p>			

0633

	20
	8
	15
<p>其の他の派遣隊は夫々展開の所在地高級指揮官の指揮下に入らしめられ行動を</p> <ul style="list-style-type: none"> 一 鉄嶺派遣隊は鉄嶺において武装解除せらる 一 旅順、三十里堡派遣隊は旅大地区において武装解除せらる 一 多倫派遣隊は承德において武装解除せらる 一 安東、博川、派遣隊は安東において八月一八日武装解除せらる 一 北支済南派遣隊は同地において武装解除せらる 一 錦縣、阜新、赤嶺、派遣隊は錦縣地区に集結し八月二六日武装解除せらる <p>一 鞍山駐屯部隊主力八月一八日武装解除されたる後昭和製鋼所撤収作業に従事す</p>	<p>停戦</p> <p>停戦に伴い左の如く「ソ」軍により武装解されたる後入「ソ」す</p> <p>第六中隊 湯崗子、鎮南浦、阜新、旅順、鞍山、三十里堡、綏中、錦縣、博川等に展開し航空警戒及び警備に従事す</p> <p>第五中隊 湯崗子、通遼、多倫、安東、赤、関、阜新、錦縣、博川</p>

						16
17	12	11	10	9	9	9
1	10	21	8	30	29	27
<p>共にす</p> <p>部隊長</p> <p>中佐 江原亨</p> <p>二</p> <p>南方派遣航測中隊の行動</p> <p>特殊航測訓練参加のため龍鎮出發</p> <p>關東州界通過</p> <p>大連出發</p> <p>台湾高雄上陸</p> <p>同日屏東着特殊航測演習に参加</p> <p>比島穩密搜索作戦に参加</p> <p>一部を台湾に残置し比島上陸「マニラ」攻畧戦参加</p> <p>比島、台湾を撤収し泰國に転進「バンコック」「ランパーン」「チェンマイ」</p>						

0635

617~3

		至自		至自	
		17	1717	1717	1717
		5	5	5	4 4 3 2 2
		11	8	5	16 151 305
<p>大尉 宇野 郁郎</p> <p>中隊長</p> <p>龍鎮本部に帰着</p> <p>大連出発同日関東州界通過</p> <p>大連上陸</p> <p>「パンコック」出発</p> <p>第二次「ビルマ」航空作戦及び輸送業務に従事す</p> <p>第一次「ビルマ」航空作戦及び「ラングーン」攻密戦に参加</p> <p>に展開泰進駐並びに泰緬国境突破作戦に参加</p>					

0636

昭 和	自 至						年 月 日	才 四 航 空 情 報 連 隊 (洋才九三〇二部隊)	略 歴
	18	17	17	17	17	17			
	8	12	12	12	12	11			
10	9	30	29	27	8	29	22	略 歴	
<p>軍令陸甲第一〇一号により中部第一二〇部隊に於て編成に着手 編成完結</p> <p>宇品港出発。第六飛行師団(洋部隊)長の隷下に入る。</p> <p>「ニューブリテン」島「ラバウル」港着</p> <p>「ニューブリテン」島上陸</p> <p>部隊は直ちに航空作戦に即応する為本部を「ラバウル」に置き情報本部を先づ 「ラエ」に次いで遂次「ツルブ」「ウエワク」「マダン」に設置「ニューブリ テン」島「ニューギニア」島に於て西南太平洋戦及び第一次「ビスマルク」戦 に参加。航空情報の集収に任ず。</p> <p>「ニューギニア」島航空情報網強化のため部隊主力は同島に前進す、部隊本部 は「ウエワク」に位置す、第六飛行師団長の隷下を脱し第四航空軍司令官(真</p>								略 歴	
								摘要	

0637

			至 自			至 自				
21	21	21	20	20	20	19	19	18	19	18
6	6	6	9	8	6	4	1	12	3	8
19	17	4	2	15	17	下旬	20	5		10
復員完結	名古屋港上陸	復員のため「サルミ」出発	に入る。	終戦に伴い第四航空軍司令官の隷下を脱し、第三六師団（雪部隊）長の指揮下に入る。	「サルミ」周地の戦斗並び警備に任ず	航空作戦地上対空戦斗に対する周到なる戦斗準備を実施せしむ	警戒中隊二ヶ中隊、材料廠一を増設、廠編成以止完結	軍令陸甲第九九号により編成改正第四航空情報連隊と改称。	戦に参加し、同地区に於ける情報網を強化す。	主力を逐次「ホーランジャ」に移動せしめ、第二次、第三次「ニューギニヤ」部隊の隷下に入る。

0638